

# あいち病害虫情報 最新情報

平成 23 年 8 月 16 日  
愛知県農業総合試験場  
環境基盤研究部病害虫防除グループ

## 残暑は厳しい！！

8月12日発表の気象予報によれば、向こう1か月は平年と同様に晴れる日が多く、気温は高い確率が50%と見込まれており、特に1週目（8月13日～19日）は高い確率が80%と厳しい残暑になりそうです。ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、的確な防除を心がけましょう。また、作業は朝夕の涼しい時間帯に行うなど、健康管理にも留意しましょう。

## イネの病害虫

葉いもちの発生はやや少ない状況ですが、いもち病に感染しやすい条件が7月下旬に発生し、穂いもちも平年並に発生しています。上位葉までいもち病病斑が見られる場合は8月2日発表の「いもち病情報第4号」を参考に防除を実施しましょう。

斑点米の原因となるカメムシ類の発生は、依然としてやや多い状況が続いています。ミナミアオカメムシは発生が多いほ場も見られます。7月15日発表の「病害虫発生予察注意報第3号」を参考に適切に防除してください。

セジロウンカの発生量は平均すると例年に比べ少ない状況が続いていますが、ほ場での生息状況をよく見て、増加してくる場合は必要に応じて防除しましょう。

トビイロウンカの飛来及びほ場での発生は、現在のところ確認していません。

## ダイズのハスモンヨトウ

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、台風6号が接近した7月第4半旬に急増した後、平年並となっていますが、8月中下旬にかけて次世代の成虫が発生し産卵するものと推測されます。また、今後しばらくはハスモンヨトウの発生に好適な気温が高い状況が続くことから、ハスモンヨトウが急激に増加するおそれがあります。そのため、ほ場での発生状況に十分注意して、白変葉を確認したら早めに防除をしてください。詳しくは8月9日発表の「病害虫発生予察注意報第4号」を参考にしてください。

## 果樹の病害虫

チャバネアオカメムシのフェロモントラップ、予察灯における誘殺数は少ない状況が続いており、果樹園へのまとまった飛来は確認されていません。7月下旬の県内のヒノキでの寄生虫数は少なく、ヒノキ1球果当たりの口針鞘数も少ないため、口針鞘数に基づく飛来予測では、8月における果樹園への飛来量は少ないと予測します。詳しくは8月2日発表の「果樹カメムシ情報第2号」を参照してください。

チャノキイロアザミウマ第6世代成虫の発生ピークは、東海市8月25日、名古屋市8月26日、豊田市、蒲郡市および豊橋市9月1日、南知多および伊良湖9月2日、稲武においては第4世代成虫の発生ピークが8月23日と予測されました（JPP-NET、8月15日まで実測値で計算）。カンキツ園での発生量は概ね平年並ですが、ミカン果頂部が加害される時期ですので発生ピーク予測を参考に防除しましょう。

ナシヒメシンクイのフェロモントラップにおける誘殺数は平年並です。ナシでは果実が熟してくると成虫の飛来が多くなりますので、農薬使用基準に十分注意しながら防除しましょう。

ナシ黒星病の発生が一部地域で多い状況です。来年の伝染源にならないよう被害落葉の処理を徹底し、収穫後の防除をしましょう。

## 野菜・花き類のチョウ目害虫に注意！

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、一部多い地域もありますが、おおむね平年並に推移しています。キクでは例年、9月になってからオオタバコガによる被害が増加しますので、発生動向に注意しましょう。

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、8月に入り一部の地域で多い状況です。ほ場周辺のサトイモやダイズ畑の被害状況を参考にし、ほ場での発生に注意しましょう。

アブラナ科野菜は、発芽、定植直後にハイマダラノメイガに加害されると、大きな被害になります。播種時や定植時に薬剤処理が可能な作物では処理を行い、初期被害を少なくするよう心がけましょう。

8月に入り好天が続きチョウ目害虫の繁殖に好適な環境が続いています。今後は発生が急激に増えることもありますので、ほ場での発生状況に注意してください。キャベツ、ブロッコリー、ハクサイなどの苗や、早まきのダイコンでは、防虫ネットを設置することも成虫の飛来防止に効果的です。

## タバココナジラミに注意

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミの発生が各地で見られます。屋外の粘着トラップにおけるコナジラミ類の誘殺数が田原市で多くなっています。施設開口部に防虫ネット（目合 0.4mm以下）を設置するとともに、施設内での発生に注意し、早期防除に努めましょう。

### 農薬危害防止運動実施中（6月1日から8月31日まで）

今年度の重点事項は次の3つです。

- 1 農薬ラベルの十分な確認
- 2 農薬の飛散防止
- 3 農薬の盗難・紛失等の防止

農薬を使用する前に、ラベルの内容をよく確認し、使用方法を守りましょう。

農薬の飛散防止に努めましょう。

- ・防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
- ・散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
- ・風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。
- ・飛散の恐れがあるときは、近接ほ場の生産者に連絡しておきましょう。

農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

- ・農薬は、「普通物」と「毒物」「劇物」を区別して、鍵の掛かる場所に保管しましょう。
- ・農薬散布の準備中も、畑やハウス、自動車などに安易に放置せず、適切に管理しましょう。

暑い時期です、作業中に熱中症にならないよう注意しましょう。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ  
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820